

むゆの末の實

幼いころ我も衆は祖父の家と地つがきで

木戸をよしてまつすふ行くと祖父の家

廊下には 廊下には

不意といろろで花水らのちやうらん水

有らんべいろ

不意し男を召めとたはし一糸合ぐらいの

餅たんにあり ちよんえの中にむゆの實木

あり ぶゆの實が合で物と思つていふがうた

か たべろ木有りお花と同じと思つた

表玄関から不意まんが三人入つて来た

二人は紫の羽衣 うちろの 一人はケレ

の着物 二人をろつてお程をほじりた

指環を奪ひひと言もそちかえすのお程だ

時折ふししの不意まんが十一ととりんをちう

す ちうといはむり跡止だ

長いお程が絡るとお茶とお菓子の用意を

左部屋へ行きしすおに召し上つてい

やがて父が半ゆのちうをちうを三人お一人

お一人たていおいとおじおをしながらわたり

半ゆのちうを

三人の立場さんは 長崎から入った来た

中云園から来たって行くと

中云園から来たって行くと

たべると ^{ニヒ} のやい ぶつたるってい

現在 カタロガを 欠て びつはるい

西風ヤウラエ 木はる、大ぶつはるい

カタロガの間から はうりと ぶつはるい

ぶつはるい ぶつはるい 六月末 とかい

とかい

申し込と 六月に ぶつはるい

申し込と

2021
3/7